

## イケチョウガイの給餌飼育について（続報）

幡野 真隆

### 1. 目的

真珠母貝（イケチョウガイ）の種苗生産では稚貝を漁場の湖水をかけ流して飼育されているが、自然環境下であるため、不安定要素もある。そこで、昨年度イケチョウガイ稚貝の給餌飼育を試みたところ、一定飼育可能であることが判明したため、今年度も引き続き給餌飼育試験を行った。

### 2. 方法

飼育装置は昨年度と同様、内径 15.4cm の小型アップウェリング容器を用いた。平成 26 年 6 月 10 日から 7 月 4 日にかけてイケチョウガイ脱離稚貝を 525～2,850 個を 10 容器に収容し、1 トン水槽内に設置した。水槽内はろ過湖水を約 600L 満たし、0.5 回転/日の換水率で連続的に注水した。水槽をヒーターで 20～28℃に加温した。餌料は水産試験場で培養したクロレラの 1 種 *Chlorella homosphaera*（以下培養クロレラ）を給餌し、最初に稚貝を収容してから 30 日後より市販の濃縮クロレラ（クロレラ工業製 V-12、以下市販クロレラ）も加えて給餌した（図 1）。餌料はチューブポンプとタイマーを用いて 6～8 回に分けて給餌した。8 月 5 日、9 月 10 日に容器内から一部を取り出し、写真撮影したのちに画像解析ソフト（Image J）を用いて殻長を測定した。飼育中測定した貝は再び容器内に戻した。10 月 18 日に取り上げを行い、生残数と平均殻長を測定した。

### 3. 結果

合計 20,872 個収容した稚貝は、2,002 個収穫できた。試験終了時の生残率は 0.2～26% であり、総数からの生残率は 10%であった。また、生産された稚貝の平均殻長は  $20.0 \pm 3.3\text{mm}$  から  $25.0 \pm 3.3\text{mm}$  であった。飼育日数

と平均殻長をグラフに示すと、図 2 となり、昨年度の試験より高い成長を示していた。今年度の生残率は昨年度の 17%よりも低かったものの、平均殻長は約 10mm だった昨年度を大きく上回っている。昨年度との違いは培養クロレラを継続的に給餌したことが挙げられ（図 1）、イケチョウガイ稚貝の育成には市販クロレラよりも培養クロレラの方が有効な餌料であることが示唆された。

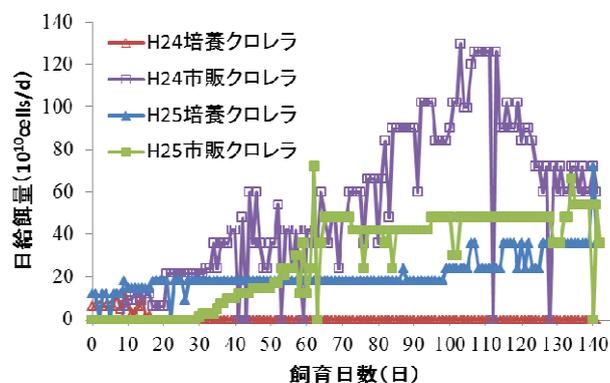


図 1 試験期間中のクロレラ給餌量の変化

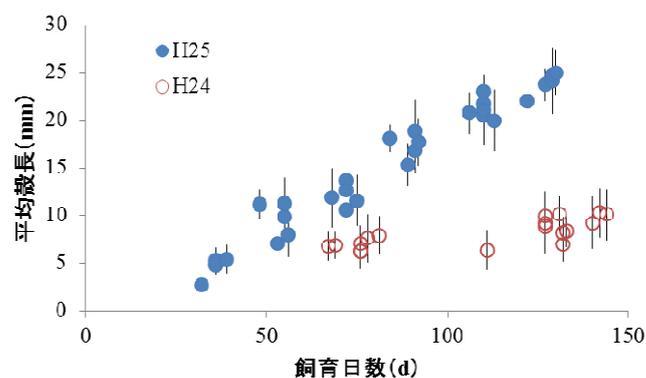


図 2 飼育日数と平均殻長の関係